

“原発性アルドステロン症”（の疑い）で入院予定の患者様へ

東京女子医科大学病院 高血圧・内分泌内科

原発性アルドステロン症の診断、治療について簡単にご説明させていただきます。

高血圧のなかには、ある特定の原因による高血圧があり、これを二次性高血圧と呼びます。原因を特定できない本態性高血圧とは病態も治療方針も大きく異なっています。

この二次性高血圧のひとつに、アルドステロンという血圧を上げるホルモンが副腎でたくさん作られることにより血圧が上昇する原発性アルドステロン症という病気があります。報告にもよりますが、高血圧全体の約5%（1.6%～11.2%）とされ、従来考えられていたよりも高頻度であるとされておりま

す。高血圧患者さんのなかでも、この原発性アルドステロン症を疑う患者さんの場合、治療方針を決定するにあたり、機能確認検査、局在診断が必要となります。当院においては、こうした検査を入院で行っております。具体的には、下記に示すような流れで入院検査を行います。

高血圧患者さんのうち
外来検査で、原発性アルドステロン症が疑われる方



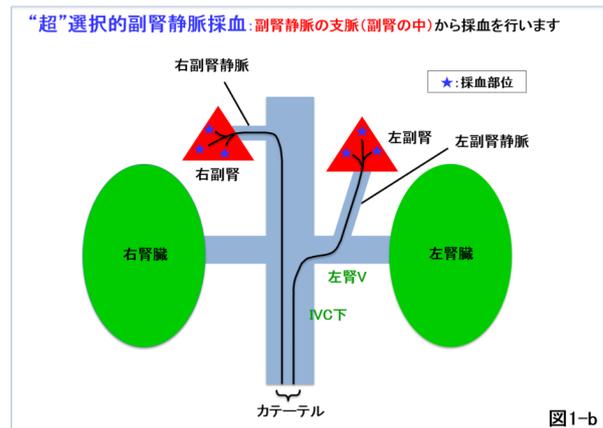
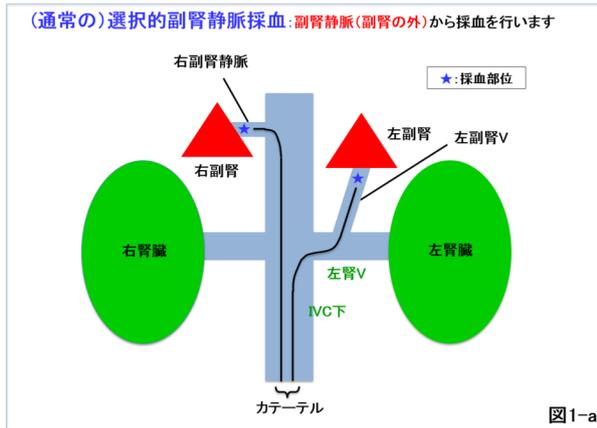
入院で機能確認検査などの検査を行います。機能確認検査は複数ありますが、当院では、患者さんの状態などから判断して3種類の検査を行うことが多いです。

入院期間は通常5日（休日は除く）。概算で70,000円（3割負担の場合。室料、食事代は含んでおりません）ほどの費用がかかります。

ホルモン値の測定には時間がかかるため、退院後の外来で結果の説明を受けます。この際に、原発性アルドステロン症と診断されると、次に局在診断のためのカテーテル検査を行うことになります。カテーテル検査の前日に入院して、特に問題がなければ、検査翌日に退院となります。



足の付け根の静脈から、カテーテルという管を左右の副腎静脈まで進めて採血を行います（選択的副腎静脈採血）（**図1-a**）。この検査によりアルドステロンがたくさん作られている場所が、左右の副腎のいずれかなのか、あるいは両方なのかを判断します。当院では、通常副腎の中までカテーテルを進めて採血を行う“超”選択的副腎静脈採血（**図1-b**）という特殊精密検査を行い、アルドステロンが副腎のどの部分でたくさん作られているかを判断しています。標準的な入院期間は4日間です。概算で72,000円（3割負担の場合。室料、食事代は含んでおりません）ほどの費用がかかります。



カテーテル検査の結果を退院後の外来で説明いたします。その後の基本的治療は、以下のようになります。

1) 病変が片側の副腎のみにあった場合

手術治療(腹腔鏡下副腎摘出術)を行います。病変が小さい場合には部分切除も可能です。

2) 病変が両側の副腎にあった場合

一般的には手術ではなく薬物療法が行われます。しかし、当院で行っている“超”選択的副腎静脈採血の結果、両側に病変があっても左右それぞれの病変が小さい場合には、その部分のみを切除する手術によって治療することができます(図2)

